

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



『瀬戸焼』

千年以上の歴史と伝統を有する
やきもののまち瀬戸の陶磁器

愛知県瀬戸市
が応援するふるさと名物

- ◎瀬戸焼の商品群
- ◎瀬戸焼に関わるやきもの文化



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

愛知県瀬戸市

地域の
プロフィール

◆千年以上の歴史と伝統を有するやきもののまち瀬戸

愛知県瀬戸市は、名古屋市の東約20kmに位置し、千年以上の歴史と伝統を有する世界を代表するやきものの産地です。やきものの代名詞ともいえる「せともの」ということばは、『瀬戸（でつくられた、やき）もの』に由来しています。瀬戸では、今から約千年前にやきものづくりが始まり、その生産は休むことなく連綿と現在まで続いており、このような産地は世界的に見ても瀬戸だけだといえます。この長い歴史の中で生み出されたやきものは、多種多様であり、日本国内のみならず海外にまで流通し、常に日本のやきものづくりをリードしてきました。



1

ふるさと名物

◆多種多様な瀬戸焼商品群

やきものづくりの歴史は平安時代にまでさかのぼり、10世紀の後半にやきものの生産を開始したのが始まりであるとされ、日本六古窯の一つとして千年余の歴史を刻んでいます。特に12世紀末から15世紀後半には「古瀬戸」と呼ばれる中世唯一の国産施釉陶器が生産されました。

また、江戸時代後期に磁器の開発に成功したことにより、国内有数の陶磁器産地として君臨し、陶器は「赤津焼」、磁器は「瀬戸染付焼」が国の伝統的工芸品として指定されています。

その後、器を中心としたやきものづくりで培われた造形、焼成等のノウハウを活かして、セトノベルティ（陶磁器製の人形・置物や装飾品など）をはじめとする海外向け製品に加え、碍子・ファインセラミックスに代表される工業製品など、新たなニーズに対応しつつ、あらゆる製品を生産・供給しています。



伝統的工芸品
赤津焼



伝統的工芸品
瀬戸染付焼



セトノベルティ
招き猫

◆瀬戸焼を支える地域資源

多種多様な瀬戸焼の生産を可能にしたのは、自然の恵みである良質な粘土が多く産したことです。瀬戸市からは、大変良質な粘土である木節粘土、蛙目粘土が産出されます。この二つの粘土の特性は、耐火性が高く、可塑性に富むというところであり、加えて粘土中には鉄分がほとんど含まれていないことから、白いやきものをつくり出すことが可能です。そのため、それを活かした様々な絵付・施釉製品が生み出されました。

このような、良質で豊富な粘土が市内で採取されることを強みの一つとしている瀬戸市の陶磁器関連産業は、粘土や釉薬などの原料から生産道具の製造に至るまで、ほぼ全てを瀬戸で賄え、装飾方法をはじめとした様々な技術を蓄積する全国的にもまれな産地となっています。



採掘鉱山



作陶技法 ろくろ成形



装飾技法 染付

2

ふるさと名物

◆瀬戸焼に関わるやきもの文化

窯元や工房が集まる地域では、古い窯道具を積み上げて築かれた幾何学模様の壁や塀のある小径ややきものづくりを間近に感じられる散歩道など、長いやきものの歴史と文化の中で生まれた様々な風景に出会えます。そして、窯元めぐり、作陶体験では、瀬戸焼を観て、買って、作って、楽しむことで、瀬戸市の奥深い魅力を感じることができます。

また、やきものの博物館である瀬戸蔵ミュージアムでは、大量生産で活気のあった時代の瀬戸をイメージし、まちの象徴である旧尾張瀬戸駅、工場（モロ）、石炭窯、煙突などを復元し、やきものの歴史や人々の生活などを身近なものとして感じることができます。



不用になった窯道具で作られた
窯垣の小径



陶祖・藤四郎の業績を伝
える陶祖碑



瀬戸蔵ミュージアムの
石炭窯と煙突

ふるさと名物の内容

その他にも、80年以上続く「せともの祭」、「窯めぐり」など、年間を通じてやきものに関するイベントが開催されており、内容は廉売市や作品展、体験など多岐にわたります。毎年、多くの方が瀬戸を訪れ、やきものの魅力や温かい人情に触れたり、溢れる情熱を体感しています。

また、昭和30年代、瀬戸焼の祖と言われる加藤四郎左衛門景正（藤四郎）を祀る陶彦神社周辺の商店街を中心に始まった「瀬戸焼そば」は、豚の煮汁を使ったダシが特徴です。その理由として、力仕事が多いやきものづくりに携わる職人たちは、肉料理やホルモン料理などのスタミナ食を好んで食べていたことから、豚肉料理を作る過程でできた煮汁を焼そばに応用したとも言われています。そして、平成23年12月には地元の有志で構成された「瀬戸焼そばアカデミー」が設立され、瀬戸焼の器を使用して提供することにより食と器が一体となったプロモーションを展開しています。

その他にも、ご飯とおかずが一緒に素早く食べられ栄養価が高いため、一度窯に火を入れると何日も徹夜続きの陶工たちに重宝されてきた「ごも飯（五目ご飯）」など、やきもののまちならではの様々な食が存在します。



せともの祭



せと・まるっとミュージアム大回遊
ゆるり秋の窯めぐり



瀬戸焼そば

市及び団体等の取り組み

1

支援計画の策定

◆瀬戸市地場産業振興ビジョンの策定【瀬戸市】

瀬戸市のやきものの歴史・文化をはじめとした地域資源の再評価を行い、これらを有効に活用して他地域との差別化を図るとともに、強みを活かすことによって地域産業を活性化することを目的として、平成24年3月に瀬戸市地場産業振興ビジョンを策定し、目標として定めた「陶都瀬戸の産地力向上」の実現に向け、事業者、関係団体及び行政の適切な役割分担と市民の参画により、ビジョンに基づく取り組みを進めています。

2

協議会の設置

◆陶都瀬戸躍進会議による包括的な支援【陶都瀬戸躍進会議】

瀬戸市地場産業振興ビジョンを推進していくため、商工会議所、陶磁器産業関連団体、企業団地組合、商店街組合、外部有識者等、行政からなる陶都瀬戸躍進会議を設置しました。

目標に「陶都瀬戸の産地力向上」を定め、①ブランド力の強化、②創造力と提案力の強化、③革新力と技術力の強化、④集客力と発信力の強化を基本方針とし、会議に所属する団体等が実施する瀬戸焼の知名度向上等に資する事業に対して、補助金交付をはじめとする様々な支援を行っています。



3

主な取り組み

◆地域団体商標「瀬戸焼」の登録

【愛知県陶磁器工業協同組合・瀬戸陶磁器工業協同組合・瀬戸陶磁器卸商業協同組合】

産地が一丸となって技術や品質の維持・向上を図り、地域ブランドをより適切に保護するため、平成24年12月に地域団体商標「瀬戸焼」を登録。地域団体商標の活用により、窯元などの事業者だけでなく地域住民の地域ブランド化に対する意識を高め、他産地との違いを明確にするとともに新たな価値を創出し、「瀬戸焼」ブランドを確立する取り組みを推進しています。

※瀬戸焼とは瀬戸市及び尾張旭市で成形及び焼成した陶磁製の指定製品



setoyaki
瀬戸焼

◆商標「セトノベルティ」の登録

【瀬戸陶磁器工業協同組合】

他商品との差別化を図り販路開拓及び拡大に繋がるよう平成26年8月に商標「セトノベルティ」を登録。

商標を活用して「セトノベルティ」の知名度向上、ブランド力の強化及び売り上げの向上を目指す取り組みを進めています。



市及び団体等の取り組み

◆ 「瀬戸焼ランデヴープロジェクト」の実施

【瀬戸焼振興協会】

多方面で活躍する新進気鋭のデザイナーやアーティストの「感性」と、瀬戸のつくり手が受け継ぐ瀬戸焼の伝統的な「技術力」を融合・連携して、未来に向けた「新しい瀬戸焼」を作り出し、瀬戸焼のブランド化の推進と販路拡大を目指しています。



◆ 「瀬戸焼検定」の実施【瀬戸商工会議所】

瀬戸焼の技術、陶都瀬戸の伝統・文化を継承し、産業界、市民がそれぞれの立場で陶都瀬戸を盛り上げていくことを目的に、瀬戸市民をはじめとする一般社会人向けの「瀬戸焼検定」と小学3年生から中学生までを対象とした「せとやきっず検定」を実施しました。



- 01 瀬戸で200年以上も前にできた古い神社は何でしょう。
● 陶産神社 (陶産社) ● 窯神神社 ● 深川神社
- 02 焼き物でできた置物のことを何というでしょう。
● かいし ● ノベルティ ● ファインセラミック
- 03 石ころの壁にどろぼうのぬんすを塗りこむことを何というでしょう。
● いこみ ● ゆうやくけ ● 焼成

◆ 「瀬戸焼ブランド発表会 made in Seto」の開催

【瀬戸焼振興協会】

瀬戸焼の知名度とブランド力の向上を目的に、東京・南青山においてブランド発表会を開催。産地一体となって、やきもの産地としての「瀬戸」が持つ総合的な産地力と多種多様な瀬戸焼の魅力をPRするとともに、デザイナーとのコラボレーション事業による成果も合わせて発表しました。

